

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4570102618		
法人名	有限会社彩華		
事業所名	グループホームひまわりの杜		
所在地	宮崎県宮崎市潮見町50番地1 (電話) 0985-61-0170		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年10月14日	評価確定日	平成21年11月27日

【情報提供票より】 (平成21年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年10月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤5人, 非常勤2人,	常勤換算4.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000~34,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年9月20日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	4	要介護2	2
要介護3	2	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84.6歳	最低 78歳	最高 89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ささき内科、青山歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街に位置し、近くには小学校、スーパー、公園などがある。同じ建物内にある併設のデイサービスや、日課としている散歩の中で地域の人達との交流もあり、地域に密着したホームとなっている。管理者、職員は日ごろから、利用者を人生の先輩として尊敬しながらケアに携わっており、寄り添い、傾聴する介護の理念が自然に実践されている場面が多く見受けられる。「仕事が楽しい」との職員の言葉からも利用者との良い関係をうかがい知ることができた。終末期ケアにおいても運営者自らが取り組んでいく姿勢を表しており、今後、さらに発展が期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をもとに、職員会議等で改善に向けての話し合いが持たれている。重度化に向けては、家族や掛かりつけ医との方針の共有もできつつある。今後、ターミナルケアについても運営者自らが前向きに検討し、対策を模索中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが評価の意義を理解しており、利用者への日々のケアを振り返りながら、自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月ごとの開催が定例化している。毎回テーマを決め、委員や外部から招いた講師による食中毒や災害に対するの出前講座も開いている。会議には全ての家族に参加を呼び掛けているため、家族からの意見や要望もここで討議され、活発な意見交換がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、家族からの意見も何うようにしている。また、運営推進会議への参加案内を行い、ホームに対しての不安解消にも取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣公園への散歩が日課となっており、あいさつを交わすなど地域の人達との交流もできている。今年度、運営者が地区の班長になったことで、より地域に密着したホームになってきている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりが地域の中で安心できる暮らしの継続を支えるために、項目ごとに具体化された理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は採用時から理念の理解に努めており、全員が共有している。また、理念がトイレや廊下、食堂等、常に目につくところに掲示され、日々のケアの中で自然に実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、毎日の散歩時には地域の人達が声をかけてくれるようになった。今年度は、運営者が地区の班長になり、近隣の方達とも顔なじみの関係を築きつつある。	○	班長の立場をチャンスととらえ、地域活動や人々とのかかわりを積極的に持ち、双方が支え合う関係の確立を望みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、一人ひとりが日々のケアを振り返りながら自己評価に取り組んでいる。また、前回の課題となった項目にも、管理者を中心に積極的に取り組み、ほとんどが改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月ごとに開催し運営上の問題点の話し合いのほか、テーマを設けて講座も開いている。家族からの意見や要望もこの場で出され、活発な討議が行われておりそこでの意見をサービスの向上につなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が中心となり、相談やアドバイスを受けるなど、市の担当者との連絡を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月のホーム便りに添えて個々の状況報告を行っている。来訪による利用料支払時には、出納帳等の確認をお願いしている。遠方の家族にも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段は不満や苦情が出ることは少ないが、運営推進会議の中で家族等から得られた意見、要望等を検討し、サービスの向上につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規職員には事前に実習期間を設けており、利用者の混乱もなくスムーズに移行できている。運営者は、職員が定着することを一つの課題として、改善策を模索中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内を職員に周知し、段階に応じた研修会への参加や個人の希望によっても積極的に参加させている。研修内容も復命書にて全職員が共有しており、勉強会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会等に参加し交流の機会を持っている。他のホームとも情報交換を行ったり、見学の来訪もある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に管理者とケアマネージャーとで訪問したり、ホームに見学に来て昼食を共にしてもらうなどしながら、なじんでもらえる工夫をしている。希望があれば宿泊も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は理念にある「その人らしさを尊重する」との思いを大切にしており、利用者の気持ちに寄り添いながら昔の話をしてもらったり、生活の知恵を教えてもらうなど、共に学び支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は、本人や家族の意向をそのつど聴取し、継続的なケアにつなげている。意思表示が困難な場合は、日々のケアの中から思いを見だし対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを十分に行い、毎月のケア会議において話し合いをしている。参加できない家族には電話で情報交換を行い、本人、家族の思いも生かした介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに介護状況や本人の状態を評価し、心身の状況の変化に応じて関係者間で話し合い、現状に即した介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診や外出、また、帰宅願望のある利用者をドライブに誘うなど状況に応じた柔軟な支援がされている。週1回、併設のデイサービスで行われる音楽療法への参加も継続している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの掛かりつけ医で受診を支援しているが、緊急時には協力医での受診も了解してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合についての話を家族とも行っている。今後、ターミナルケアに向けて家族、掛かりつけ医との方針の共有も検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、言葉かけにも思いやりを持って対応している。記録なども所定の場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の表情や体調を観察し、個々に応じた生活支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専任の栄養士による献立、調理がされている。職員も同じ物を一緒に食べながら、見守り、声かけをしているが、利用者同士でも声をかけ合いながら食事をしている場面がみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回と決めてはいるが、個々に合わせた支援がなされている。夜間、職員が一人体制のときは清拭で対応している。また、浴室は中庭を眺めながら入浴できる落ち着いた空間になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で、それぞれの得意分野を見だし発揮できる場面を作っている。洗濯物にしても、干す係、取り込む係、たたむ係と自然に役割ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	計画を立て、定期的にドライブ等の外出の機会を作っている。近くの店に買い物に出かけたり、また、家族の協力の下、外食や美容院への外出も支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関先が階段になっているため、安全面を考えたうえで鍵をかけている。利用者が外に出ていこうとする時などは、さりげなく声をかけたり、一緒について行くなどの工夫がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地区消防団との連携ができており、防災訓練も実施されているが、職員が一人になる夜勤時の災害対策について不安が感じられる。	○	夜間を想定した訓練が望まれる。また、昼間に行う訓練の時に、近隣住民にも参加の声かけを行うなどして協力体制を築いていくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量が細かく記録されており、利用者に見合った必要量、食形態も工夫されている。摂取困難な方には、栄養補助食品での対応がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花が飾られ、広間の壁には笑顔の写真や、落ち着いた雰囲気ディスプレイが施されていて、利用者はそれぞれの居場所で穏やかに過ごしている。インフルエンザ対策として常時加湿器がつけられていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や装飾類が置かれ、それぞれの個性に合った居室になっている。冷蔵庫を使用している方もおり、利用者が居心地良く過ごすことのできる配慮がされている。		

※  は、重点項目。